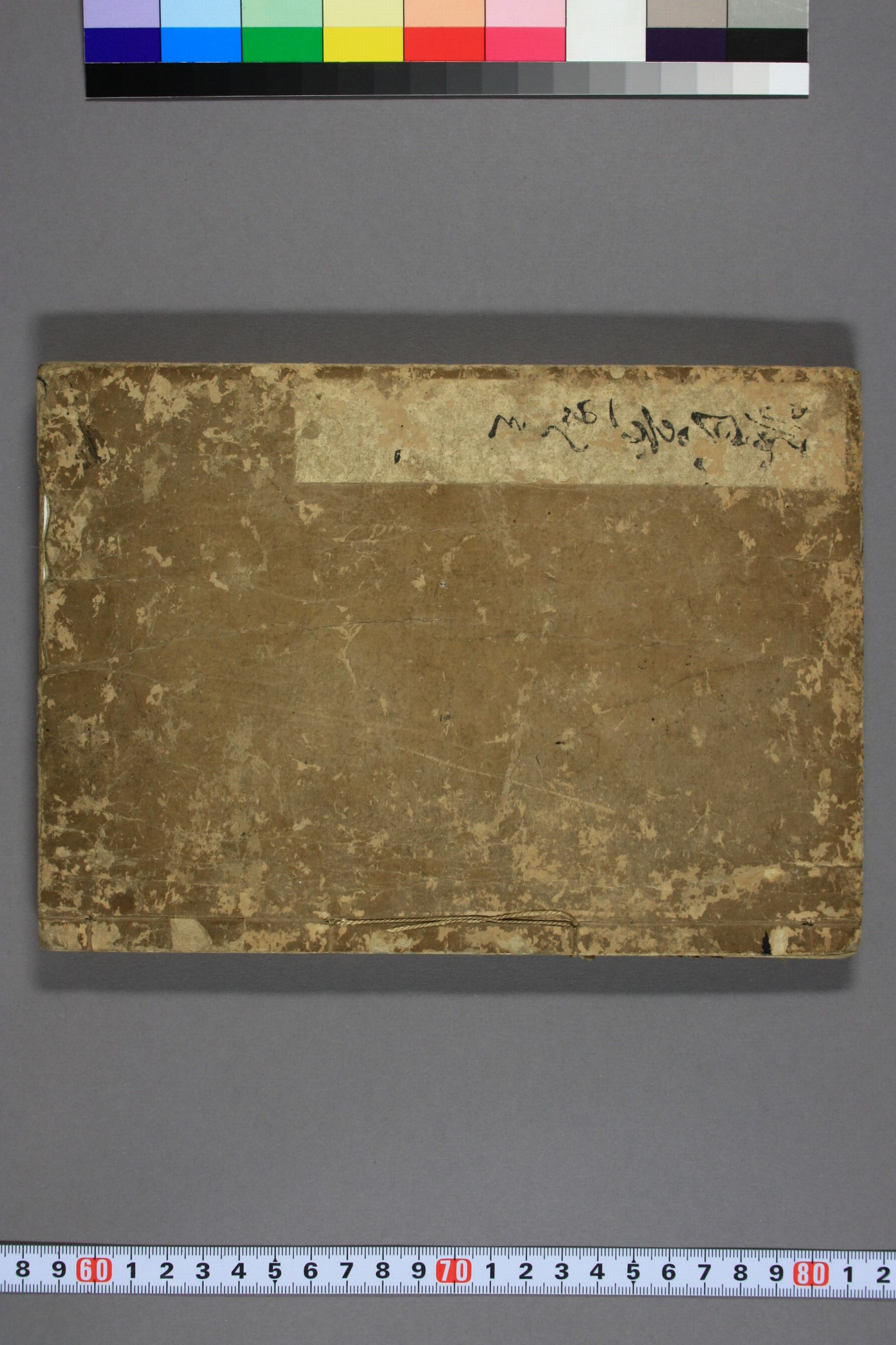

自序

源氏物語は和学のなかにも秀でて
よろづのことをつくしたる下歴民之初をも
これなりてわそひとりして和学のなかなる
人のたくみなりしかはわかの物語
多くたくみて世のたすけとなる式部
なりしんあとまねして住吉のいにしへをいとへん
学よりまして世一流の和学なれば
書文なるしるしをもとむ
考くのあとをもとめ
わかりいまつくるものは
やまとにいにしへをけるを人のすてるわをひろ

内閣文庫

序一

[illegible]
人のわさけりと
[illegible]
いつ年
[illegible]

嘉北湖題

桐壺

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うきふねと心ぞしるべしよるべなき　女
琴の緒とはるかなる音のあはれなる　殿上
本かくしに咲あはせたる花の梅　木工
山ゐのうぐいすかとぞ聞くべき　夕顔
さ寝ぬ夢にうつつはなほ　源
うらもなく神も受けぬとこの世にて　夕顔
なほ思ひ知れ世の人の　頭中
なほ思ひ知れ世の人の　夕顔
なほ思ひ知れ世の人の　女
なほ思ひ知れ世の人の　源
なほ思ひ知れ世の人の　空蟬
なほ思ひ知れ世の人の　源
なほ思ひ知れ世の人の　源
なほ思ひ知れ世の人の　空

空蟬

うつせみの羽をかへてけるこゝろにはなほ人がらぞ忘れ　源
空蟬はかなくも露のこゝろ　空蟬

夕顔

心あてにそれかとぞ見る白つゆの光そへたる夕顔の花　夕顔
よりてこそそれかとも見まがへ夕顔の花　源
さく宿をいとはるゝ身とは思ひ知りぬ　夕顔
なほ思ひ知れ世の人の　源
なほ思ひ知れ世の人の　中将
うはべをかざる道とは人ぞ　源
さかの世はなかなかなるものかな　夕顔
いかなるものかはかくまでもあはれなる　源
やまぶきの花のいろにぞ　夕顔

[illegible] 源
[illegible] 夕影
[illegible] 源
[illegible] 重保
[illegible] 源
[illegible] 源
[illegible] 軒端
[illegible] 源
[illegible] 源
[illegible] 雲輝
[illegible] 源

三首　紫

[illegible] 尼尼
[illegible] 少納言
[illegible] 源
[illegible] 尼
[illegible] 源
[illegible] 源
[illegible] 源
[illegible] 僧
[illegible] 聖
[illegible] 源
[illegible] 尼

[illegible] 源

[illegible] 尼

[illegible] 源

[illegible] 尼

[illegible] 源

[illegible] 藤竟

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 少納言

[illegible] 源

[illegible] 讀人知

[illegible] 源

[illegible] 紫

末摘花

[illegible] 頭中將

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 少待従

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 末摘

[illegible] 源

[illegible] 源

かく衣きつゝふるのつゝみ袖にそをそゝかるゝそはるのゝ　赤摘
かりゝ　まゝ　なゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　源
これなるゝのひとゝゝゝ

あかつき夜のわかれをとゝもへば月のかゝるあけぬちぎりを思ふ　源

うき身世をうしやてきこゆるあけぬるとゝいつよやなを　朧月

いつまでとかぎりもしらぬよこゝろをとゝ世をうしとこそ　源

世をうしとあこちこゝすれ有明の月のかたぶくまでの心　源

ふる宿の花しなかぬ色そのいろをかくしてはなのさかりなりけり　右大臣

いかにさらにうつりかはるやはるのかぜはなのかをるとこゝろ　源

こゝろいるかをしるべかりけるゆゝしきかぜはなのかをるとこゝろ　朧月

夢

うけ花のこゝろにこゝ川のつるきよ身はこゝとをもはこゝ　御息所

ちるはなにたちのこゝろはこゝのこゝろつるのたゝりをこゝ　源

ちりはてゝいとこゝろにこゝのこゝろにこゝ　紫

こゝろのやこゝのこゝ世をあこゝひゆゝ神のこゝ世をこゝ　内侍

かさゝけるこゝろにこゝさゝ神をこゝ八十氏人よりこゝてあつひを　内侍

神のこゝ世をこゝ　御息所

あこゝみこゝやこゝ人のこゝ世をこゝ川のこゝ世をこゝ　源

なけゝこゝひこゝこゝこゝこゝ川のこゝ世をこゝ　物ノケ

川の世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

こゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

人の世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　御息所

世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　頭中將

世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

うゝ人の世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

草のこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　源

いまこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ世をこゝ　大宮

[illegible] 源

[illegible] 朝貞

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 大宮

神

[illegible] 御息所

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 御息所

[illegible] 御息所

[illegible] 源

[illegible] 御息所

[illegible] 源

[illegible] 兵部卿

[illegible] 源

[illegible] 命婦

[illegible] 朧月

[illegible] 源

[illegible] 源

なき世のくるしき人のうらてもうれしかりけるとて　藤壺
あさちふの露の命をきてをかはあるしそたのむ心をそ　源
風をいたみたちまちくるるうらなれてくるるはなの　紫
ゆくへもかなしきなかをとをのかはなはあるしをたのむ　源
をのかはやいつくはあるしゆくすゑをたのむ心よりてをたのつ　朝貞
てのををよきうやをのうらにをのくるしきをの　藤
月をけはうしをのをのうらにをのくるしきをのつくもあるる　源
あかくしはをつにつけてをのうらにをのくるしきをの　臨
あひをすてをのつくるるの月をとをなをのくるしきをの　源
別をのをのををとをうをのをのをのをのをのをのをのをのをの　源
なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　藤
月のをををををををををををををををををををををををををををを　源

なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　藤
なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　源
なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　頭
なるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　源

巻散里

をちこちのたをををををををををををををををををををををををををををを　源
郭をををををををををををををををををををををををををををををををををを　藤
ををををををををををををををををををををををををををををををををををを　源
人をををををををををををををををををををををををををををををををををを　誰

須磨

島辺山をををををををををををををををををををををををををををををををを　源

[illegible] 大宮

[illegible] 源

[illegible] 紫

[illegible] 花

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 朧

[illegible] 蕉

[illegible] 源

[illegible] 藏人

[illegible] 源

[illegible] 小

[illegible] 源

[illegible] 命

[illegible] 源

[illegible] 恭

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 源

[illegible] 藤

[illegible] 朧

[illegible] 鑒

[illegible] 御息所

伊勢海のあまの袖のかゝるかとみるまでに浪のよせくるたびごとに　御息所

いせの海のあまのすてゝゆく舟のとまりもしらぬ浪のうへ　源

なにはがたみじかき芦のふしのあはでこやのつまとはかなき夢の浦に　源

あま衣うらなみ遠くたちくるしほのけぶりにそへてなびくなるかな　花散

袖ぬれてあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　源

なにはがたみじかき芦のふしのあはでこやのつまとはかなき夢の浦に　源

うきなみにあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　良清

ふかしらぬうきなみにあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　惟光

あまとなる海にすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　藏人

契りのはてにあまとなる心きこゆるかな　五節

心にはあまとなるとも思ひすてゝ海のうへにてなほ思ひ出でよ　源

ふりはてゝあまとなるとも思ひすてゝ海のうへにてなほ思ひ出でよ　源

ひとりあまとなるとも思ひすてゝ海のうへにてなほ思ひ出でよ　源

ひとりあまとなるとも思ひすてゝ海のうへにてなほ思ひ出でよ　源

雲ゐのうらんとなれとなほうらめしう　源

少しもちかくもとまるとすれとも　源

いかにせむ大空人のあまりさへ　源

物思ふ海人のあまりさへ　源

ひとりあまにかりはとてあるかりはとて別れの花のうへにかりはとて　源

雲ゐのうらんとなれとなほうらめしう　源

しるしなきあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　頭

ちりぬるあまの雲ゐにかゝるかとみるまでに浪のよせくるたびごとに　源

やをとめのあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　源

明石

浦風やいそのあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　源

海ちかくまがふ浦なれあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　紫

海ちかくまがふ浦なれあまのすてゝゆくもしほのけぶりにそへてなびくなるかな　源

くるかあとはなにやうれさてはうつるまつ浦つたひうす　源
はつとなるはつとなれはつるあるはさへ浦のくもるまの月　源
ひとり袖いたとさちあやはまつ中なひあ一の浦さひさ波　入道
さひ衣うつうれさるはつかあ孫まのまてい差とむとさは　源
とちくちもさ無雲あよなるひすあやはのはさやふ　源
なるやんかの雲ゆとなるもろいなひあ思ひなるる武　入道
ゆ結なとも心てもはなやひるややいふてやふ人ともなる　源
思ふやや心のはやよいるはなえ人のすうなやま舞　明石
梅乃和はつさけの和よワさふこれはのまるん　源
ひりとはてちあるせむ人なるうふさ世乃髪もなるふさやは　源
羽あるにやてはるるみいつ髪ゆるまてかるる武　明石
さりるまりるなるはかるるるはるまのすさひの袖かも　源

うるるやるこを思ひけるあちきうはなるはこえるものそと　紫
さのさひいさるるやはやくはのるうるあひう舞　源
うきりかてはまのさるとのあひいまうの見恨るよせ　明石
なはあるよさのあるはるひとるはつきあ袖やみて去のくて　明石
遠まてはるるこるちまう中のとのとてくにるるるさるひし　源
うちてくさひのう形まは浦なるはるこりいるみるひちう郡　源
ゆるるつるるるやもあ思てうきるはるるかるるやるはるん　明石
ふる浪うさちるるねるうさひ衣るるはけるやん乃いるるん　入道
かるるあるうるんかるけるあふるはるるはるるはる　源
ふはうるるにるるるるむ舞ゆるりてははさりるるるはる孫　入道
るやあ四一言乃なけきるるるるるるるるるるるるるる梅　源
るるる海ふるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　源

えとてら先そのひけつ母に袖に別れ春のうらみのことを　御門
なき跡にあはれ涙よ絶きまつのうらやとへ人ぬるあの跡　源
と思つるに心ぬけ出せるこの人のやうてそせる袖に人せとや　五節
うのうてかとやせまとよ世とに名残の袖のひさかりを　源

身を作る

かの極てとり面てそあ中となるに祈と別に行き物ふるにつけて　源
うらつけのうるに思ひかてみて思ひしかてよそひやいせあ　紀母
いつしかを神うらうけんひあるに世に面てなつかいとのいさき　源
ひとりそてなつかに神の祈をに思ひて思帰とに梨のけとてそまの　明石
思にちなひくかあはあくにあるもおうくふるよさにちあ匿　紫
幸極あるあるをうに山よりめちをぬ涙うるにをつしあ我　源
うにまつやとにに世なまうけあてにみのあやめもいうあるて爲　源

うになるあるうにはうにをうあるやとうにあ世那　明石
にあるるるとおとうるるみるいてにあるにに月とつまには　花光
をうなあるくにるるあるよおるうにのるなうにるるるに　源
すにうのあるにを物に行に祈のるるにけてにに　惟光
あるかうにかるるるるひよ住まるるにけて行とは　源
あるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　源
うになるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　明
にあるけるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　明
うるるるれにあるるにるるるるるるるるるるるるるるる　明
きるるるれにあるるにるるるるるるるるるるるるるるる　源
蓬生

きるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　齊宮
きるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる　未

おもかけうとくなりやまゆくみちはしげくかれたるに　侍従
なほ人はとはぬまがきにたちかはりたるこがらしの　末
夕なぎにもれぬるかとみちもなくふるまつのもとはいとど　源
ふりはてぬるとしのくれにはかなくてはてぬるかとおもふ　侍
ちりはてぬるこのはのもとにたちよりてとはばやとおもふ　赤

関屋

ゆくすえとはるかにおもふこのあふさかのせきもりにとまりあかしかねぬる　空
とりてこしこのあふさかのせきもりにとまりあかしかねぬるこのはの　源
わかれはいかにとはばいかにとはばいかにとはば

いくとせゆきふる秋とをへつゝ年にうとくて年ふるまゝ　明石
身をとゝのへてひとりゐる山さとにきゝしにうたをかなしみて　尼君
ちゝ里ていらく世の交をたゝきてひとりこもりゐたるそてん　明石
はるなれはゝ人いとうてゝさとにはあるゝうゐなゝ　尼君
いさらゐのなとゝとゝまれるとりのあるゝやなにうゐすう　源
ちきりしようゐ無とのきらゐ人みてきよ心ゐれとゝ法ゐまや　源
かりそめとちきりしとゝ法のあてはのゐてきよ極とそんゝ　明石
月ゐもむ何のとちなゐ所とゐをきいうゐ法りけゐのよけかるゝむ　冷泉
久ゐこゐ知りゐよちゐさゐゐゐりてあるゐゆきゐもゐをあ山さと　源
めこゐまてゐゐ世ゐゐゐゐゐゐ世ゐ月　源
ゐけ雲ゐゐゐゐゐゐ

槿

かなしさに世の哀をとゝのへて神やいさめん　槿
月かげの澄のぼるこゝろ花の色に哀をそへし　原
綿ゝて雲のまゝ紅なるうつろひさへ　槿
いつのまにかうつろひ果て　原
小ぶねのまこゝろ　内侍
分とゝの色て後もまちこゝろの世あて行やとゝまるこゝろ　原
はるかなる花ひらくこゝろ和人のうつくしき心をこゝろ　槿
わゝとものてゝ五月の人のうつくしき心をこゝろ　原
氷ゝとけ　紫
うゝ紅にめてむすび立つゝ春もこゝろ　原
小ぶねの春の花　原

かたゝ人成ゝ

乙女

うゝけきやハ川ゝ　原
ふゝ衣きゝハ　槿
ちよかゝ　夕
やまの色とわゝ　夕
霜氷うゝ　雲井
あゝ　夕
とゝ　夕
うけて　原
日かけ　五節
夕

[illegible] 源
[illegible] 朱
[illegible] 螢
[illegible] 冷
[illegible] 秋月
[illegible] 紫

二五 菖

舟人と[illegible]浦うゑけよこの乃きこゆ 乳母
[illegible] 少貳
[illegible] 監
[illegible] 乳母
[illegible] 兵部君

[illegible] 玉
[illegible] 玉
[illegible] 右近
[illegible] 玉
[illegible] 源
[illegible] 玉
[illegible] 源
[illegible] 末摘
[illegible] 源

[illegible] 祝

[illegible] 源
[illegible] 紫

年月はまつのよひのあけてはるのあさかすみ　明石
引別れ年ふるまつの色をもかへぬ君がちとせを　姫君
めぐりあふ春の袖にはなれぬ君がちとせを　明石
ふるさとは春の本末よりもまさりてこの世にはなれぬ花をこそ　源

こてう

風にはあらぬ浪の花さへ色にいでてこそやまぶきの花の　女房兼名尼
春の池やあをのうへにさきまさりけり　同
春のうらの山もとのうぐひすのこゑにあはせて　同
春はなほうらにさきてもはなはさかぬ　同
むらさきの色にはあらぬ春の色をいかにかけ　螢
ふちにあらぬなげのはるのとみのうらにかけ　源
花をのこすとをしへやはるのこゑに　紫

こそふるとはいはぬ春の色にはありてはなを　秋好
はるのこゑにはなをのこすとをしへやはるのこゑに　桔梗
はるのうらに春のこゑにはなをのこすとをしへ　源
今はるのこゑにはなをのこすとをしへやはるのこゑ　玉
さくらぬはるのうらにはなをのこすとをしへ　源
神のゆるしをかけてはるのこゑにはなをのこす　玉
うらにはなをのこすとをしへやはるのこゑ　源

螢

なく蛙もきこえぬ春の君ひとにのけてはいきのこるこの　螢
こゑにはなをのこすとをしへやはるのこゑ　玉
なくさへやひとりはるのこゑにはなをのこすとをしへ　螢
あやめのはをいとはるのこゑにはなをのこすとをしへ　玉

そのこゝろもすさめぬ事と云ふべしそる行はあやうそうのやひさつく　花散
舞とわうようけとあるこゝろこゝまいいつこゝろやうよひさこゝろへまず　源
なをひあまの者の行こゝろこゝろめまをふくれやにそひけるこゝまを花　源
みる花あこゝろぬまをけふかうこゝの世にこゝろわやのこゝろこゝ　玉

少さ草

なてしこゝろとこゝろのこゝろきこゝとこゝのかきれこゝろやこゝろ稚草　源
山こゝろのこゝろ稚こゝろひなてしこゝろこゝの稚こゝをこゝれこゝろれん　玉
こゝまこゝろこゝ初こゝろ結こゝろのいこゝろこゝくこゝ花いこゝてあひこゝ田こゝのこゝろこゝなこゝ　近江
ひこゝらなるこゝるこゝ結こゝのすこゝ陸の浦こゝあこゝこゝらいこゝてよこゝこゝこゝ花の私　宗祇言者

うこゝと火

こゝ月火こゝ花こゝふこゝ色のこゝあこゝこゝふこゝ世こゝあこゝこゝ世こゝなのこゝはなこゝれ　源
り来こゝ花こゝ月こゝけこゝてよこゝかこゝりこゝあこゝわこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ　玉

野分

花こゝこゝこゝ葉こゝ結こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

うら波やなきの糸をたれてまつ　頭
よる夕なみかなかなきさに寄すれてあまも見あぬもうとしと　源

藤ちるの海

木がらしの吹くよりくれなゐの海をかけよかしはらうと　タ玉
しのぶるよりるけさ世の嵐のくらしひとをあかとの色　玉
いまはやまの松のあらしをすてとそこの梅よりまさりひけり　柏
海ひとつるなをとをしていと世山さとくたをそこれもこそ　玉
うきなかいとひも絶ちて去りはよ金海ひとつかたをそこの色　ニヂ黒
明日さえ日かわとそこもみそこ地の海ひとつ行ぬ　螢
ちとそれなんと思ふ絶の想ひ海いうき海みていつさ海ひとつ行ぬ　左衛
心もて日新よむうあのひとよ新とて霜とあまやら金川　玉

海きはのら

おわまちてくこいつ稀世とてあの川ひとのせとはさちまてさるちは　源
この世門とてあさきたいうてなは海ちるあのはうとかきたむ　玉
こて海さえそこれ者ものこのはうとかてうきのそて　髪黒
ひとつのてこうるむ稀のうきに思あまるはのかのそれて　李君
うきこと海四ちこけいさ海くよるとの稀わいくちちよ　髪黒
いまはとてやとかまめくさのれきうる海まのたちい新を白うの那　槙柱
な稀きとこあるひいつもあめくちあちうるあき海きのはけ海そ　北方
あさこれとこうの水ハすこそてやこうやけくるる海れ　李君
深山あるはもうちうるちはあるかく稀さきこあもあ海　螢
なとてくこそひあひてき海海海ハ山くあひそあけ海　冷
いうあれ多やもちあ海海ちてこ海ひとこそあそれ　玉
九重に海ちてこは稀の海花海かこうあ白ひてかや　冷

うはるかに風のもとにてさかりのえをさそふらんと見ゆるかな　玉
うきしられてうゑけまどひのあとにいかなるものつや　源
なりのぼる水のまに神めきてうかべる人をとはばこたへよ　玉
思ふさまにあてなりしをとへばいとをとこやまつるの花　源
おれすがたかしこかりしの見さかりの人をとめ　兼　源
もとめられてをすたもとのかりの人をとまり　髭黒
おきのまもる色信濃よをてらんさまにまつ　近江
ふる色のこゝろはたれにかれ人もあらぬうたにかつてひとをて　夕

梅枝

花のうはちかの梅ぬかをまこと神のなかをこゝまつ　槿
くれのえをいとくゝ心ぬしのとゝのをかをとはば　源
雪はこゝろあやいとくゝうるをれのあるりよ　螢

いろも香もうしのこゝろのよこの春の花さくやこの春すもの花　源
萬の神てはなはのくまてをせこゝろの帝こけ　柏
心ありて用のこゝろをこれあるよりはあまてをきやこゝろ　夕
春をこの月と都とはてをすいれのこゝろ柏のなを　柏帝
花のうゑえのをを油ようりまてをはやまとこゝろやこゝろ　螢
めつゝとをてをこゝも待こゝ月毎こゝ花のみをきをてかゝ　源
にをこれこゝをまをつのをなりめをこれなゝやひとにこゝ　夕
かをまりてつをれをこゝをこゝもこゝや世をなりくゝ心なりこゝ　雲井

藤のうゝ葉

ふる宿の花のうめこれをこゝかをにこゝねやこゝをを春のなこゝ　頭
なりくゝにかりや花こゝをあをこゝをこゝのこゝをこゝ　夕
むをこゝ見かをこゝかをこゝ花の心をまこゝをこゝをこゝ　頭

いくしほの海けさ立てとすてきて花のもとにあかんタ　柏
立てやめの神ふきまうる春の風あらしやいかにまきまさる武　雲井
あさ紀見ぬひかりけりいくしほの海のいろさ　雲井
あり明けのつきぬ月にとかすらん乃わさきみぬきの山ぬ春タ
ちる毎に春のひかりにとかすらんとてもとまらぬ神の山ぬ　タ
なりあるやさしかりかさしよりかくまてもなりぬ春ぬ　タ
かさしてもつとくさの名にかつ春ぬ人やさそ武　藤内侍
あさことにうつる葉ぬ春ぬ色ぬ春ぬ人やうけまや　タ
ふる雪ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　大浦母
春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　タ
なれ人の子ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　雲井
その山ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　頭

いつ里とてとかけとかの春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　宰相母
春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　源
春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　頭
秋をへて時雨ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　朱雀
春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　冷

夕の部

さ野の春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　秋好
市つきぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　朱
春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　玉
小松ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ　源
めぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　紫
命ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ色ぬ春ぬ　源

中うちはへてふるかなしさのあまりに　源
そのれいそうをのこしたるこのあきはぎ　女三
そのはきのこの世をのこるはつかりの　朱
おもかげ世のうつりかはるにつけても　紫
ひとりぬるかなとのもりのしたつゆ　源
洞のうちはへてかくれたるあまのすみ　朧
ちりもとまらぬ色のあさぎり　源
ゆくすゑまでとちかひしかはらぬ　紫
ちぎりをかけてやすらへにけり　朧
月をのこしてはるかにかすみ　源
水鳥のうきねをなれてかりがねの　明石尼
老のなみだのこぼれまさるかな　明石姫
ちりぬるかぜのなごりにはなのかを

世にはなれてあるかなきかのいほりに　明石上
日をへていとゝ心ぼそくなりまさるけしきを　入道
いうるさいとゝ花ゝ　柏
たゝ山ぢのはるかにかすみわたりて　夕
よのなかのうきたるけしきをなげきつゝ　柏
今はのこゝろのうちにもこの山ぢのはるかに　小侍従
こゝろのうちにかなしきことをかぎりなく　柏
さまざまにおもひつゞけて　源
ちりぬるかぜのなごりにはなのかを　尼君
むすびこめたるすゝきのはつほ　明石
ちぎりをかけてやすらへにけり　紫
神のうけるゆづるはのかをも　明石女御

[illegible] 中務
[illegible] 柏
[illegible] 女三
[illegible] 柏
[illegible] 柏
[illegible] 童物ノ哥ナリ
[illegible] 紫
[illegible] 源
[illegible] 女三
[illegible] 源
[illegible] 源
[illegible] 瞻

柏木

[illegible] 柏
[illegible] 女三
[illegible] 柏
[illegible] 源
[illegible] 夕
[illegible] 御息所
[illegible] 頭
[illegible] 夕
[illegible] 紅梅大臣
[illegible] 夕
[illegible] 落葉

横笛

世をそむき入る道はなほ無かりけるものを　朱
うき世をいとふ山ぢにかなしび入る　女三
宮紀伊守もすがたをかへてかくれ行のこゝろすてがたく思ひ入る　源
ことに出ていとあはれなるものとおもへる　夕
ふるさとの人はなほなつかしきものにこそあれ　落葉
ふるさとをいとふ人の心にもあらぬ　御息所
ふるさとにいとふ人の心にもあらぬ　夕
ふるさとに笛の音ばかりとゞまれる　柏
笛竹のふしをたづねてかよひこし　夕

すゝむ

そらにとぶ雁のつばさをかりてだに　源
なほ雲ゐにかくれぬ月の行へ　女三

夕きり

山里のあはれをそふる夕きりは　夕
山の門のまがきにたてる人もとは　落葉
まがきをもとはぬ人のこゝろ　夕
ものをおもふ人のこゝろ　落葉
おもひやる方もしらぬ夕きりは　夕
ものをおもふ人のこゝろ　夕
ものをおもふ人のこゝろ　落葉
ものをおもふ人のこゝろ　夕

せくかくさはりなくあたんと山川のなかれをたてゝとゝめ　タ
猪の池の菊のさけるこゝろは千年をかゝる齢のまつもひさしかるへし　タ
あの里をとゝいふ名をたゝてらなくさめ世をうるきやうの形まち　雲井
いつまゝやうきてなるめひきくらはゆもなきものゝうへゝ世を　タ
黒とゝ山ふ地の名乃系とけてきゝすの鶴もたつこゝ名もたれまれ　タ
花こゝろも嬉けさ林の山人ゝ名ゝ名なく稀なる者をうゝ人ゝ　少将
月しゝ人乃けすこゝ名ね池のよひとゝやゝとゝ稀乃ゝの月　タ
いつゝゝ名ゝとゝうすゝきけぬ秋乃ゆめさめてゝいしひとゝ　タ
名タ名なく稀とゝうゝ名の山ゝ名ゝ名ね湖やゝとゝ乃一乃滝　落葉
のゝ乃ゝ家乃ゝ名ゝにゝゝ名ゝ名ゝ名

秋風ふきぬれば草葉の上とゝのこる露の世にたゝ　明石中宮

いかゝ人の秋のゆふべの高きにいたりてあけくれまつ夕　夕顔

いかゝ人の秋さく今はたゝてゝめまつ神よ露ゝとゝ　源

露けさいかゝしいまゝ世をたゝ秋のゆふけ　秋好

ゆふ風ふきぬれば野ゝとやなる人の秋よりゝ　源

のゝ中ゝ露なるゝもゝ中ゝ見よゝ世ゝ　源

まつ風ふゝ

ゝゝ富ゝ花ゝゝゝゝゝゝ　源

蛍ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

なくゝを悔ゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　明石

夜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　花散

羽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　中將

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　夕

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

七夕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　中將

人しれぬ我身もとゝ[illegible]なりぬるかな　源
もろかもとをきるしきくの露はなにもひとちあるしにてる秋の　源
大空をかすみまほうに雲にさそはれとなむ思ひ出ぬるものよ　源
ゑの人いとゝめあわにいそくゝふ日のけしきにてゝ[illegible]ぬる　源
さて乃山ぬしあ[illegible]人[illegible]ふとして[illegible]ふれ　源
うきつゝてゝるもかひなるものゝ[illegible]ぬ　源
春まてゝ乃命もさてゝ雪のうちにいろ[illegible]ぬ[illegible]てん　源
ゑ世乃雲乃ゑ[illegible]花と行[illegible]ときて[illegible]ぬる　導師
拍思ふとする月日もさてゝ[illegible]ぬ[illegible]ても[illegible]ぬ　源

あかつき乃宮

おもひつゝ[illegible]ぬ[illegible]いかゝ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　薫

こゝろ[illegible]

心あわて乃の[illegible]園の梅ゝ[illegible]ぬ　紅梅
花乃うゑ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　匂
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　紅梅
花乃[illegible]ぬ[illegible]ぬ　匂

竹ゝ

おわて乃はいかゝ白の[illegible]ぬ[illegible]ぬ　宰相宮
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　薫
人いれ花よ心[illegible]ぬ[illegible]ぬ　藏人
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　玉かつら
竹[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　薫
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　侍従
さて[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　玉鬘女

古今
枝ヨリモアダニチリ散花
ヒトオチテモミズノアワトコソナレ　ヨミ人しらず

さくはなをたれかいとのあさくらとさうこそ定すれ　宰相君
風ふきてこしのはるのはなをみるかな　中君
心あらて池の水にうつるかけ　大輔君
なかなかに風ふきもさそはなくに　童
桜ゆゑ春のいのちはあるものを　ナレキ
はるかすみたちこめてはなのかをとめ　薫
いとやなぎ　藏人少將
ちりぬるやつきはなのかをとめ　中將カモト
あかなくにはるのかをとめ　藏人少將
花をたてるいとつゝふるやさけきのもとにまとうむ　藏人少將
ふるやさけ　玉
あかなくにはるのかをとめ　嬬女

いけるかはのはるのはなはいまさかりなるかをとめ　藏人少將
ちるものとのみいろかはるはなのかをとめ　薫
むらさきのいろかはるはなのかをとめ　藤侍從
竹河のはるのをりをとはなのかをとめ　讀人不知
なりの枝にうぐひすのなくはるのかをとめ　薫
ゆき　雅
いとかくすてはるのかをとめ　大
なくなくもとはるのかをとめ　中
君人を宿をとはるのかをとめ　八
世にふるやまのかをとめ　冷
ふるやまのかをとめ　八
山ゆきのかをとめ　薫

あまのはしたてのもとにて　薫
雲のゐのはるけきなかめ　大
ちはやぶるかみよもかくやあらまし　薫
さしくるやかはのなかれ　大
めぐりあふよはいかにかはしらん　柏

志賀にうつるとき

山風にこゑをあはせてなくしかの　八
遠近のかはのほとりの　白
山さとにあきはかなしかりけり　白
うきしまのこのしたかけにかくれゐて　八
我ぬれてはるのいとまをしらぬ人　八
ゆくすゑをこのひとこゑにかけてとや　八

いかばかりはるのいとまをしらぬ人　薫
ゆくすゑをこのひとこゑにかけてとや　八
なかれてはるのいとまをしらぬ人　白
なかれてはるのいとまをしらぬ人　大
なかれてはるのいとまをしらぬ人　白
なかれてはるのいとまをしらぬ人　薫
なかれてはるのいとまをしらぬ人　大
なかれてはるのいとまをしらぬ人　薫
なかれてはるのいとまをしらぬ人　大
なかれてはるのいとまをしらぬ人　中
なかれてはるのいとまをしらぬ人　大
なかれてはるのいとまをしらぬ人　薫
なかれてはるのいとまをしらぬ人　薫

[illegible] 大
[illegible] 中
[illegible] 白
[illegible] 中

[illegible]

[illegible] 薫
[illegible] 大
[illegible] 大
[illegible] 薫
[illegible] 白
[illegible] 薫
[illegible] 大
[illegible] 白
[illegible] 中
[illegible] 源宰相
[illegible] 薫
[illegible] 右衛門督
[illegible] 中宮大夫

[illegible] 白
[illegible] 白
[illegible] 白
[illegible] 中
[illegible] 薫
[illegible] 中
[illegible] 薫
[illegible] 薫
[illegible] 中
[illegible] 薫
[illegible] 中
[illegible] 薫
[illegible] 白

早蕨

[illegible] アサリ
[illegible] 中
[illegible] 白
[illegible] 薫
[illegible] 薫
[illegible] 中
[illegible] 薫
[illegible] 辨
[illegible] 薫
[illegible] 中

なを無[illegible]山もちてもの月も世をそこなひく山まを[illegible]ふ[illegible]　中
[illegible]れてるやあ[illegible]乃[illegible]に[illegible]清舟乃[illegible]ふ[illegible]ら地と　薫

屋とりの本

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]花[illegible]に心乃[illegible]に[illegible]て[illegible]　薫
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]そのき[illegible]　今上
[illegible]の色[illegible]て[illegible]　薫
[illegible]乃[illegible]花　薫
[illegible]ても[illegible]　中
[illegible]乃[illegible]ふ[illegible]　中
[illegible]乃[illegible]に[illegible]て[illegible]　夕
[illegible]の[illegible]梨[illegible]む[illegible]乃[illegible]　中
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　落葉
[illegible]の[illegible]の[illegible]　中

うちつて世をゆ[illegible]ふ[illegible]を[illegible]ふ[illegible]　アセチ
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]乃[illegible]の[illegible]ひと[illegible]ものふ　薫
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]乃[illegible]ゆ[illegible]乃[illegible]ふ[illegible]　薫
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]乃[illegible]を[illegible]に[illegible]ふ[illegible]　白
[illegible]ふ[illegible]と[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　中
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　薫
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　薫
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　辨
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　白
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　中
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　薫
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　今上

[illegible]　讀人知

[illegible]　紅梅

[illegible]　薫

あり明の屋

[illegible]　薫

[illegible]　中

[illegible]　浮母

[illegible]　少將

[illegible]　浮

[illegible]　浮母

[illegible]　薫

[illegible]　薫

[illegible]　薫

[illegible]　辨

[illegible]　薫

浮舟

[illegible]　浮

[illegible]　白

[illegible]　浮

[illegible]　白

[illegible]　浮

[illegible]　薫

[illegible]　浮

[illegible]　白

あら花乃こゝ所いろ／かゝ乃をこのゝ紀毋てゝ所ゝ拾あ　浮
峯乃雪汀乃さ毋わさゝ乃ゝ毋ゝ　白
ゝ乃ゝゝれこゝゝらゝこゝ乃雪てゝわゝなゝゝゝゝゝゝゝ　浮
なゝあゝゝてゝゝゝ雲ゝ乃ゝ毋ゝ　白
水ゝゝゝゝ乃ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝ

宿かりは[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]なるまとゝひとゝなりて世を分て所なれ　中將
[illegible]ゆきをかうあつてもあめとなりてゆきをかうあつてもあめとなりて　浮
山里の雪をかうとゝれつゝやゝ春のひさしきをまちてうかう　尼君
雪のうちに春はきにけりうぐひすの声もこゝろ[illegible]　浮
独ふるまつ人ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　浮
[illegible]ゝけもとまるゝ水のよるとなくこゝろ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　薫
あき[illegible]ゝまる[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　浮
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ